

団体名：むつみ台団地自治会

最終提案プレゼンテーション

むつみ台団地の防災に対する自治委員の温度差の解消策と役割の明確化、
ならびに災害発生時の情報収集・発信の方法について

2022年1月31日（月）



本日の内容

1. これまでの経緯

- ・キックオフミーティング
- ・外部関係者への個別ヒアリング
- ・自治会役員への質問
- ・中間提案報告
- ・フィードバックシートによる相互確認
- ・最重要課題 2 つに対する解決案の提示と自治会役員コメント

2. 最終提案内容

- ・自治委員の個々の「防災」および「防災組織」活動に対する温度差の解消について
- ・災害発生時における連絡方法（情報収集と発信）について

1. これまでの経緯

1. これまでの経緯 10月21日キックオフミーティング

キックオフミーティングでは、今回のプロボノの目標成果物の作業範囲・規模感を以下のように確認しました。

成果目標

ステークホルダー	現状	目標
自治会役員	6名	参照：定員11名 立候補制
自治委員	55名	防災活動への協力者を現在よりも増やす
自治会員	4 2 0 戸（参照：非自治会員 7 8 1 戸）	若い世代の加入促進

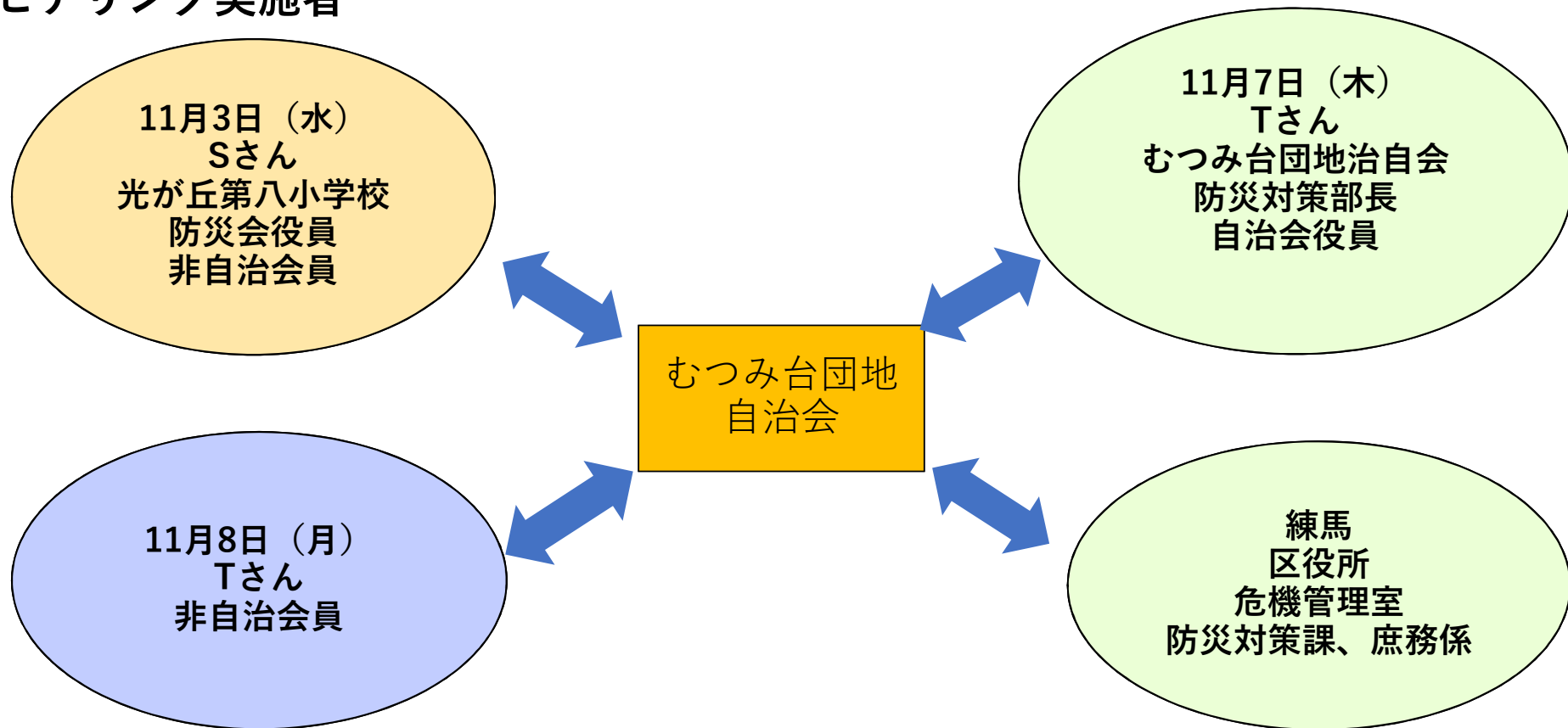
成果物の作業範囲・規模感

項目	内容
プロボノプロジェクトの種類	防災体制の課題整理（見える化）
対象分野・業務	有事の際の自治会役員ならびに自治会の役割の明確化と役割分担表の作成
ページ数、大きさ、分量等	ヒアリングをもとに課題整理と解決策と役割を検討、 優先事項から実施
その他（プロボノへの期待、活用方法、使用ソフト等）	火災だけでなく、地震、水害発生時についても意見を伺いたい

1. これまでの経緯 関係者への個別ヒアリング

重要なステークホルダーに対して、支援先が提供している価値・団体の強み、ニーズ・訴求点、ならびに、ステークホルダーが支援先に対して感じている不満・不安・行動の阻害要因等を把握することが目的に、ヒアリングを実施した。

ヒアリング実施者



1. これまでの経緯個別ヒアリング、コメントのまとめ

<3名のヒアリングのまとめ>

- ・自治会勧誘の強化（入居時の紹介は必須）
- ・日頃からの住民同士の関係性の強化（若い人向け、高齢者向けイベント）
- ・練馬区配布の防災対策関係資料の入手
- ・防災組織の立上げ（第八小防災会への加入検討も含めて）
- ・防災訓練（消火器、脱出扉、避難経路等）の実施（最低年1回）
- ・個人で可能な防災の再確認（例：賃貸だが家具固定の釘打ちの可否）
- ・自治会から防災に関する啓発を月に1回発信する
- ・有事の際の自治会の迅速な行動（例：自治会室の開放）

<小田切さんコメントのまとめ>

- ・自治会への意見募集
- ・人材台帳の作成（例：Aさんは看護師）
- ・火災報知器、防火扉の定期点検（URへ確認）
- ・練馬区より要支援者名簿の入手（アンケートによる調査含む）
- ・大雨による万が一の水害に備えて、マンホール蓋の場所を周知

⇒別紙エクセル表⇒平常時、有事発生時の自治会役員、委員、住民の役割の明確化

1. これまでの経緯 中間提案報告

中間提案では、平時・有事の対策の役割と役割図、練馬区防災会登録へ向けての案を報告した。この報告会で、既に練馬区に登録されている防災組織が存在することがわかった。

17. 平時の対策と役割担当（イメージ表）

災害	課題	対策（役割）	いつまでに	役割担当（割り当て担当含む）
火災 地震 水害	防災マニュアルの理解、活用	会報に毎回、必須の個人対策を掲載する	毎回	広報部長
	避難場所・経路の周知徹底	会報に掲載	毎年3月	広報部長
	防災会組織立上げ準備	組織案、会則案づくり、登録申請、防災訓練計画	22年6月まで	会長、事務局長、防災対策部長
火災	防災商品のあせん販売	練馬区防災学習センターなどで展示あり。チラシを会報と一緒に配布、パンフレットの配布もある。部数が多い場合は事前連絡必要。	今年度は3月31日（例年年度毎なので来年度は4月1日から3月31日）	防災対策部長
	個人消火器の保有調査	UQとの交渉	4月	防災対策部長、フロア責任者
	フロア消火器の設置 火災報知器の作動確認	UQとの交渉	5月 6月	防災対策部長、フロア責任者
地震	安否確認方法	「無事です」カードの所有確認と配布（会報等で防災の手引きの所有確認）	7月	防災対策部長、フロア責任者、広報部長（会報への記載）
	避難経路の名所場所の徹底	会報に掲載	毎年3月	広報部長
	備蓄物資の点検 家具類の転倒防止	URへどこまでやっていくかの確認（UR管理人へ確認しては）	毎年3月 前節	
水害	方への準備	マンホール蓋の周知（会報に掲載）	5月	広報部長
	方への準備	道路脇の排水口の清掃（落ち葉で詰まる）	11月	
自治会の活性化	加入促進	入居時の勧誘強化、URとの連携強化。URから入居時に自治会を案内してもらう。新入居者を教えるために、案内を行う。	通年	
	若い層へのアピール	SNS活用で新しい若い人の加入促進		

18. 有事の対策と役割担当（イメージ表）

災害	課題	対策（役割）	役割担当
火災 地震 水害	災害状況により、避難場所、消防署、医療救護所、災害時医療機関、東京電力、東京ガス、水道局、下水道局、日本赤十字等へ迅速に連絡する（※上記機関の連絡先一覧表は、防災の手引き等を参考に作成し、自治会室に保管するとともに、役員は常備しておく）。		防災対策部長 広報部長
	消防署へ迅速に連絡する。 火事発生現場から住民の避難誘導を行う。 逃げた住民のために自治会室を開放する（状況により利用不可の場合もあるため、他の公共の部屋を予め設定・準備しておく）。		防災対策部長
	発生時の連絡方法 発生時の役員の行動、役割 各フロア責任者の行動 各員の冷静な行動		フロア責任者
地震	地震後の避難誘導を行う。 対策本部を設置する。 フロア責任者（委員）は「無事です」カードの確認を行い、本部へ連絡する。各フロアごとの集計は役員が行う。 負傷者の確認と救護、消防署への連絡、区への連絡を行う。 被害状況を把握する。 備蓄物資を供給する。		フロア責任者 広報部長 役員
			財政部長
			広報部長
水害	天気予報により冠水、下水マンホール逆流の危険がある場合は、注意喚起を促す（避難場所の提示、マンホール蓋の場所の周知）。		

12. 参照：練馬区の防災対策関連資料等



19. 平時の役割図（イメージ図）



20. 有事の役割図（イメージ図）



21. 防災会立上げ想定役割図（イメージ）



1. これまでの経緯 フィードバックシートによる相互確認

フィードバックシートによる相互確認を通して、**以下の2点が最重要課題であることを確認した。**

ーフィードバック第一報よりー
(略)

情報提供の手段については放送・拡声器・SNS等様々あると考えられますが、今まで印刷機を使ったチラシが主な手段だったので、これからその手段を早急に探っていく必要が有ると感じています。

(略)

1番の課題は・・・・・・役員の中での「防災組織立ち上げ」に対する認識の温度差です。

課題 1

自治委員の「防災」および「防災組織」活動に対する温度差が課題である。

課題 2

災害発生時における連絡方法（情報収集と発信）の確立が課題である。

1. これまでの経緯 解決案の提示と役員のコメント①

課題 1

自治委員の個々の「防災」および「防災組織」活動に対する温度差が課題である。

解決案

自治委員の個々の日頃からの防災意識の向上と相互の連携強化ならびに当事者意識の向上を目的に、以下3つの解決案を提案した。全てを一気に行うことは難しく、できることから一つ一つ継続して行い、意識の向上を図ることが重要と考える。また、特定の人に役割が偏在することなく、各自治委員の方が一人でも多く参画するように、役割を分担させることが望ましい。

- ①広報部長監督のもとに、号棟担当者3名が、練馬区より「防災の手引き」を取り寄せフロア責任者（自治委員）を通じて全戸へ配布する。
- ②広報部長監督のもとに、防災対策の記事を広報に掲載する。担当は発行する毎に、役員自治委員から2名（輪番制）を割り当てる。
- ③2月20日実施予定の防災訓練は、各役員とフロア責任者（自治委員）は可能な限り参加を必須とする。終了後は、消防署から自治委員に対して「防災会の重要性」ならびに「防災組織の必要性について」を語っていただく。

1. これまでの経緯 解決案の提示と役員のコメント②

課題 2

災害発生時における連絡方法（情報収集と発信）の確立が課題である。

解決案

以下の7つを案として提案した。③④⑥⑦が実現の可能性がある。

① U R 管理室から全世帯へ連絡する（全戸一斉放送システム）。⇒システム無し

② 団地内放送網の設置も検討の必要がある。費用確保が前提となる。⇒難しい

③ 拡声器も有効である。⇒実施中（既に餅つき大会で実績がある）

④ 上記3つがいずれも不可能な場合は、自治委員による下記のルートで、迅速に情報収集・発信を行う（人海戦術）。そのために以下の準備を行う。⇒採用予定
（係名、人員数は例）＊情報連絡係3名、誘導係3名（棟毎）を割り当てる。
＊各フロア責任者（自治委員）へ任務をお願いする。

<情報収集>

災害発生 ⇒ 災害発生場所の確認・各フロア責任者（自治委員）による各戸の安否確認・安否確認ボードの指示 ⇒ 情報連絡係 ⇒ 対策本部（例：会長or事務局長）
対策本部（例：会長or事務局長）は情報連絡係とともに、団地内状況を整理し安否確認を集計して広報部長へ連絡する。なお、情報は、ホワイトボードがあれば、そこにまとめる。

1. これまでの経緯 解決案の提示と役員のコメント②

＜情報発信＞

広報部長 は対策本部（例：会長or事務局長） より団地内状況、区より練馬区情報を入手する ⇒ 誘導係（火事発生場所・団地内の被害状況、避難場所、区の支援物資情報）⇒ 案1：各フロア責任者（自治委員）⇒各戸
または案2：各棟掲示板貼なお、人海戦術の場合は、あらかじめ連絡方法（情報収集・発信）を団地住民が理解しやすい内容でまとめ防災マニュアル追補版に記載するとともに、広報にて再徹底しておく。

- ⑤ 2月20日の防災訓練時に、消防署に有効な団地内の連絡（情報収集と発信）の方法を聞く。⇒**難しい**
- ⑥ むつみ台団地以外の団地の連絡方法を調べる。⇒**実施予定（光が丘団地の自治会）**
- ⑦ SNSの活用を検討する。⇒**実施の方向で検討を予定**
 - ・ むつみ台団地としてLINEまたはFacebookの公式アカウントを取得し、広報掲載にて毎回アピールし住民の登録を促進させる（例：QRコードを毎号記載する）。登録者には、この公式アカウント上で、練馬区の防災情報、団地内の状況、被災時にすべきことの対処方法、他の情報を発信する。公式アカウントの取得方法はインターネットで検索する。
 - ・ LINEを役員委員間の身近な関係から設定し徐々に拡大していく。

2. 最終提案

むつみ台団地の防災に対する自治委員の温度差の解消策と役割の明確化、
ならびに災害発生時の情報収集・発信の方法について

2. 最終提案ー 1

自治委員の個々の「防災」および「防災組織」活動に対する温度差の解消について

<提案>

自治委員の個々の日頃からの防災意識の向上と相互の連携強化ならびに当事者意識の向上を目的に、以下3つの解決案を提案する。全てを一気に行うことは難しく、できることから一つ一つ継続して行い、意識の向上を図ることが重要と考える。また、特定の人に役割が偏在することなく各自治委員の方が一人でも多く参画するように、役割を分担させること、一人担当でなく複数担当にすることが望ましい。

案1. 既に自製の「むつみ台団地防災マニュアル」があるが、最近の入居者には配布されていないため補完の意味で、また全家庭における日常の防災意識を高め再度自助意識を浸透させるために、自治会役員主導のもと、練馬区から「防災の手引き」を取り寄せ、各戸へ配布する。

案2. 団地住民の防災意識の継続的な向上と、自治委員の防災組織への参画意識、連携意識を高めるために、毎回の広報に防災特集を掲載する。

案3. 2月20日実施予定の防災訓練終了後は、消防署から自治委員に対して「防災会の重要性」ならびに「防災組織の必要性について」を語っていただく。

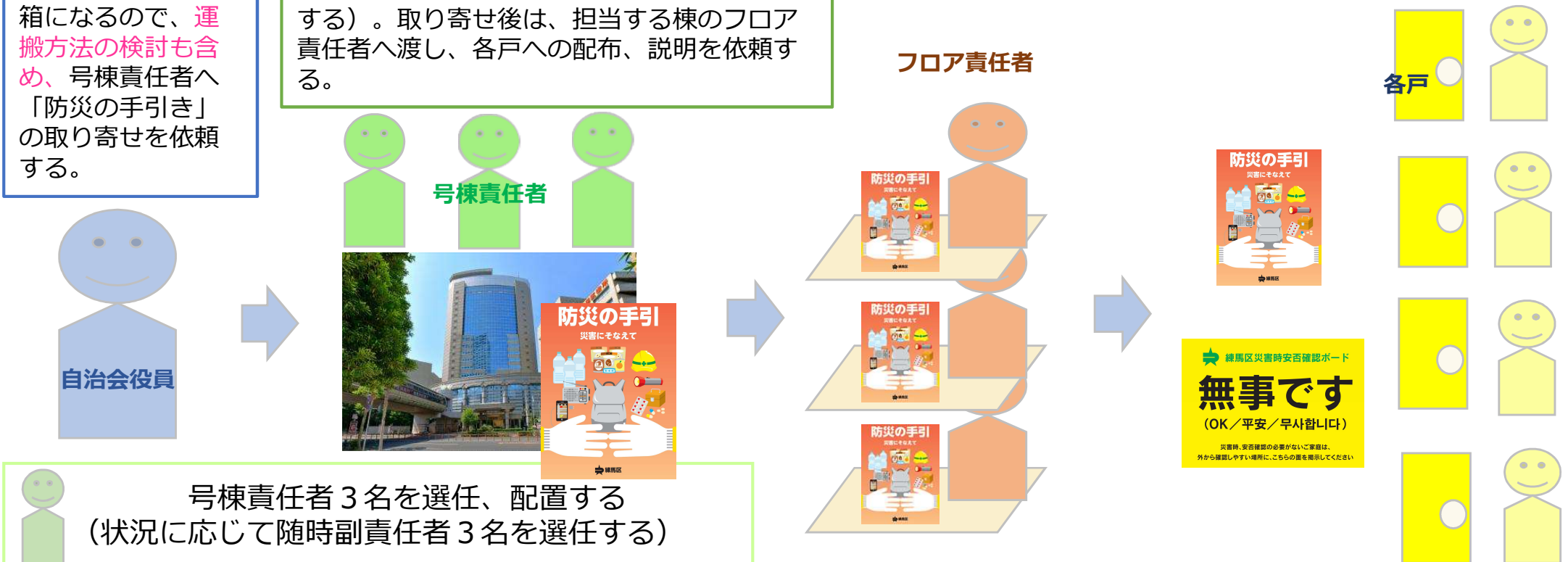
<最終提案— 1 案 1> 練馬区の防災手引きの取り寄せと配布

自治会役員主導のもとに、号棟担当者3名が、練馬区より「防災の手引き」を取り寄せ、フロア責任者（自治委員）を通じて全戸へ配布する。なお、3名の号棟責任者は新規に選任する。また、状況に応じて棟毎に副責任者の選任を検討する。

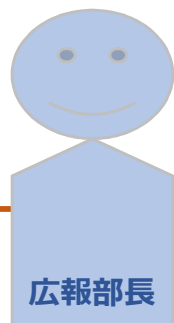
自治会役員は、取り寄せについて、**練馬区役所へ事前連絡を必ず入れる**。また、50部×26箱になるので、**運搬方法の検討も含め**、号棟責任者へ「防災の手引き」の取り寄せを依頼する。

号棟責任者に選任された3名は、練馬区役所から「防災の手引き」を取り寄せる。できれば1回で受取を完了できるように**配車等の準備**を行う（区の保管場所から車までの台車は借りられると思われるが、念のため区に確認する）。取り寄せ後は、担当する棟のフロア責任者へ渡し、各戸への配布、説明を依頼する。

棟のフロア責任者は、担当するフロアの各戸へ「防災の手引き」を配布し、日頃からの活用と安否確認カードの使用方法を説明する（なお、**各戸訪問は、人材台帳作成する上においても情報収集のチャンスも期待できる**）。



<最終提案— 1 案 2> 広報むつみ台への防災特集の掲載



広報部長主導のもとに、防災対策の啓発記事を防災特集として広報に掲載する。広報を発行する毎に、自治委員から2名の担当者を輪番制で割り当て、多くの自治委員の参画を促し、連携意識の強化を図る。なお、啓発記事内容は、「むつみ台団地防災マニュアル」と練馬区の「防災の手引き」を参考にする。



+



自治委員 A B

2021年4月5日 第400号

自治会に入りましょう
「明るく住み良い団地生活作り」をモットーに、いろいろな行事、環境改善の諸活動を推進しています。
会費は、6ヶ月/期1,800円

むつみ台 自治会 発行責任者：佐 竹 知 子 編集責任者：市 川 久 雄

防災特集 1

- 家具の下部に転倒防止板を挟む
家具の前下部に転倒防止板を敷きます。
し字金具とセットで設置すると効果が増します
じゅうたんの場合は威力が半減します。
- ガラス類の飛散を防ぐ
食器棚はガラス扉が割れて、中の食器類が飛び出して、大変危険です。
ガラス飛散防止フィルムや留め金をするなどして、対応しましょう。

地震発生！発生時の対応

いのちを守る行動

緊急地震速報
緊急地震速報が発報されたら直ちに揺れが予想されます。

揺れに備える時間帯

0～2分後

身を守る時間帯



自治委員 C D

2021年4月5日 第400号

自治会に入りましょう
「明るく住み良い団地生活作り」をモットーに、いろいろな行事、環境改善の諸活動を推進しています。
会費は、6ヶ月/期1,800円

むつみ台 自治会 発行責任者：佐 竹 知 子 編集責任者：市 川 久 雄

防災特集 2

2～10分後

被害拡大の防止、家族の安否を確認する時間帯

揺れが収まったら全ての火を消す。

付録の「安否確認ボード」を活用しよう

火災があれば直ちに初期消火活動を行ってください

10分～1日後

地域で互いに助け合う時間帯

隣近所の安否を確認する。

火災があれば直ちに初期消火活動を行ってください

●ガラス類の飛散を防ぐ
食器棚はガラス扉が割れて、中の食器類が飛び出して、大変危険です。
ガラス飛散防止フィルムや留め金をするなどして、対応しましょう。



自治委員 E F

2021年4月5日 第400号

自治会に入りましょう
「明るく住み良い団地生活作り」をモットーに、いろいろな行事、環境改善の諸活動を推進しています。
会費は、6ヶ月/期1,800円

むつみ台 自治会 発行責任者：佐 竹 知 子 編集責任者：市 川 久 雄

防災特集 3

- ビルの中にいたら
窓際やガラス部分から離れましょう。
エレベーターは利用しないでください（乗っていたらすべての階のボタンを押す）
ビル内の放送や係員の指示に従い、慌てずに避難しましょう。

「煙から避難する時のポイント」

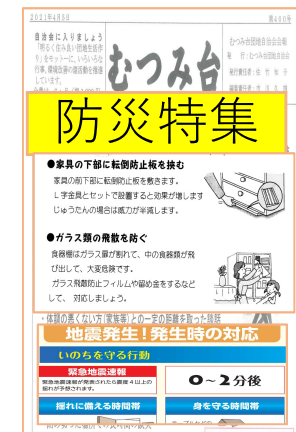
①手・膝を床に着かないようにして、姿勢を低くし、ハンカチやタオル（水で濡らすとより良い）などで口・鼻を覆い煙を吸わないようにしましょう。

<最終提案— 1 案 3 > 消防署による説明

2月20日実施予定の防災訓練は、各役員とフロア責任者（自治委員）は可能な限り参加を必須とする。終了後は、消防署から自治委員に対して「防災会の重要性」ならびに「防災組織の必要性について」を語っていただく。



むつみ団地自治委員の皆さん、
日頃からの防災会、組織の
活動がとっても大切です！



2. 最終提案ー2

災害発生時における連絡方法（情報収集と発信）について

<案1>

自治委員は下記ルートで、迅速に情報収集・発信を行う。そのために以下の準備を行う。

＊情報連絡係3名、誘導係3名（棟毎）を割り当て、かつ各フロア責任者（自治委員）へ任務をお願いする（係名、人員数は例）。

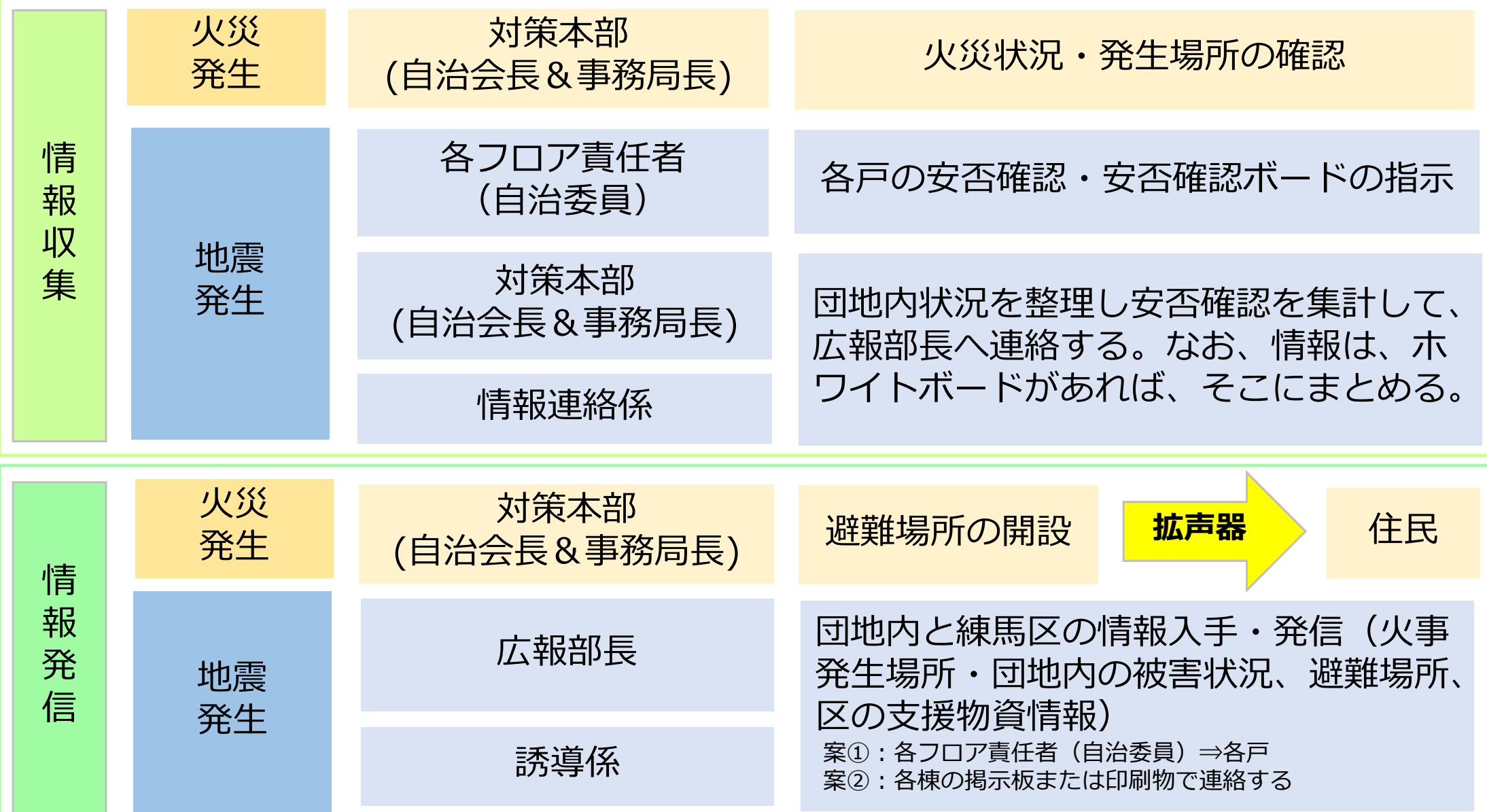
情報収集

- ・火災発生 ⇒ 火災状況・発生場所の確認（対策本部 例：会長or事務局長）
- ・地震発生 ⇒ 災害発生場所の確認 ⇒ 各フロア責任者（自治委員）による各戸の安否確認・安否確認ボードの指示 ⇒ 情報連絡係 ⇒ 対策本部 ⇒ 対策本部は情報連絡係とともに、団地内状況を整理し安否確認を集計して広報部長へ連絡する。
なお、情報は、ホワイトボードがあれば、そこにまとめる。

情報発信

- ・火災発生 ⇒ 拡声器に避難所開設の連絡（対策本部）
- ・地震発生 ⇒ 広報部長 は対策本部より団地内状況、練馬区情報を入手する ⇒ 誘導係（火事発生場所・団地内の被害状況、避難場所、区の支援物資情報）
⇒ 案①：各フロア責任者（自治委員）⇒各戸
案②：各棟の掲示板または印刷物で連絡する。なお、連絡方法（情報収集・発信）は、あらかじめ団地住民が理解しやすい内容でまとめ防災マニュアル追補 版に記載するとともに、広報にて再徹底しておく。

災害発生時における連絡方法（情報収集と発信）について <案1>イメージ図



2. 最終提案ー2

災害発生時における連絡方法（情報収集と発信）について

<案2>

拡声器、印刷物の継続実施(現在実施中)

<案3>

むつみ台団地以外の団地の連絡方法を調べる。

<案4>

S N Sの活用を検討する。

- ・人によって使っているS N Sが異なり、また若い住民の利便性を考慮すると、できれば複数の組み合わせが良い。

Twitter+Facebook（練馬区が公式で使っている。区の情報のリツイートできる）

- ・ **むつみ台団地としてTwitterとFacebookの公式アカウントを取得し、広報掲載にて毎回アピールし住民の登録を促進させる（QRコードとURLを毎号記載する）**。
登録者には、この公式アカウント上で、練馬区の防災情報、団地内の状況、被災時にすべきことの対処方法、他の情報を発信する。
公式アカウントの取得方法はインターネットで検索する。
（なお、**防災以外の自治会活動のPRにも活用可能である**）
- ・ L I N Eは、役員委員間などの身近な関係から設定し、徐々に拡大していく。

参照 SNSの検討 比較表

	Twitter	Instagram
ユーザー数(日本)	4,500万人(2017/10)	3,300万人(2019/6)
特徴	短文と画像・動画で情報を発信するという特徴に加え、10～40代で幅広い年代のユーザーが集まっている Twitterの強みは、情報の拡散性とリアルタイム性です。他のSNSと比較して、シェア（＝リツイート）がされやすく、フォロワーのフォロワー、その先のユーザーにまで広く情報が届く可能性があります。良い情報も悪い情報も、注目を集めるとあっという間に拡散されることが特徴です。一方、弱みは短文のコミュニケーションであることです。 場合によっては情報が誤認されてしまったり、十分に伝わり切らなかったりすることもあるため、伝え方には十分な工夫が必要です。 	インスタグラムとは、「写真」を使った投稿を共有するSNSの一つです。20～40代が中心であり、30代以下は女性比率が60%を超えており、40～50代の利用者も増加率が高いのも特徴です。 
閲覧	アカウントなしでも閲覧可能	原則アカウント必要
公式アカウント取得方法	https://applio.com/twitter-create-new-account	https://kobot.jp/kobotcolumn/2021/06/19/create-instagram-account#mokuji_3
料金	無料	無料
活用方法	各種情報発信	各種情報発信
自治体活用例	https://note.ad-manga.com/n/n8c167bf368c3	https://clip.zaigenkakuho.com/instagram_jirei/
練馬区	https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/koho/sns.html	なし
おすすめ度	○	×
おすすめの理由	練馬区からの情報も共有(リツイート)できる	特徴として災害関連には向かない、練馬区にアカウントなし

参照 SNSの検討 比較表

	Facebook	LINE
ユーザー数(日本)	2,600万人(2019/7)	8,800万人(2021/4)
特徴	世界と比較してアジア圏、特に日本においてはユーザー数の伸びは頭打ちになっており、とくに若年層の利用率は低めです。一方でビジネス層とも言える30代～50代のユーザーは多く、特に50代男性の48%が利用しているプラットフォームです。Facebookは実名での登録が原則であり①匿名性が低いこと、そして②動画、静止画、長めのテキスト、リンクシェアなど様々な投稿フォーマットが利用できる点が特徴です。SNSのなかでもオフシャル感が強く、3大SNSの中では60代の利用が最も多いです。	スマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレットで 사용할 ことができる無料のコミュニケーションツールです。メール以上に素早く連絡を取ることができ、通話が無 料で行えるなど、便利な機能がたくさんあります。公式アカウントで情報発信可能です。
閲覧	アカウントなしでも閲覧可能	LINEのアカウント登録の上、公式アカウントと友達になる必要あり
公式アカウント取得方法	https://blog.members.co.jp/article/38175 	https://www.linebiz.com/jp/service/line-official-account/?utm_source=google&utm_medium=cpc&utm_campaign=kwm_oa_opened_search&gclid=CjwKCAiArOqOBhBmEiwAsgeLmfNggdmHYJ9ZaGPhf-UVX4Alnn2IRtSL1tTI16c1Rmtpmwcl7rMchoC0GYQAvD_BwE
料金	無料	無料
活用方法	各種情報発信	各種情報発信
自治体活用例	https://gaiax-socialmedialab.jp/post-37104/amp/	https://blog.socialplus.jp/case/line-for-local-government/
練馬区	https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/koho/sns.html	なし
おすすめ度	○	△
おすすめの理由	練馬区からの情報も共有(シェア)できる	LINEのアカウントがないと参照できない



参照 SNSの検討

1 代表的なSNSツール

Twitter

文字制限あり 140字以内／一回の書き込み

人気飲食店のページにぶら下がりリツイートとして、自社の店の宣伝情報を載せているケースが多い。
例えば、団地住民が求めていそうな商品の宣伝リツイートをされる可能性があります。

(見ずらくなり利用者本来の目的の閲覧の邪魔になる書き込みになります)

防災含めて情報収集の検索用ツールとして利用することは有効な手段だと思います。



Instagram

商品の紹介、著名人の仕事の宣伝としては有効。個人の情報発信向きで自治会には適さない。



Facebook

友達申請することによって他自治会の新着情報もmyページにアップされます。

何をやっていいかわからない時には、参考にしたり情報収集のツールとして利用できます。

また他自治会のイベント開催の時には、関心があるものであれば参加申請することもできます。

他自治会にいきなり初見のメールアドレスで問い合わせするよりも、Facebookページがあると警戒心は薄れると思います。

学業、仕事で東京外に引っ越した場合でも、むつみ台の状況を確認できると思います。



LINE

ID作成に携帯番号必須なので、自治会窓口用スマホを準備する必要があります。QRコードを拡散する可能性があるので私用の番号はリスクが高くなります。但し、むつみ台住民のグループLINEは積極的に行った方がいいと思います。迅速な一括送信連絡が容易となります。

強制的にしなくとも、防災講習や夏祭りの時にグループLINEに誘い徐々に増やしていくことが望ましい。



参照 SNSの検討

2 公式アカウントの取得方法

Twitter：メールアドレスでOK

Instagram：メールアドレスでOK

Facebook：メールアドレスでOK

LINE：携帯番号必須

3 団地内での活用方法

広報誌と防災マニュアル表紙に自治会ページのQRコードとURLを載せる。

活用方法は【前ページ】と同じ。

4 他の自治会のSNS活用の事例

Facebookの基本ページの写真が地域の祭りの画像の自治会は迫力、インパクトがあって好印象でした。

イベント情報、防災の時事ニュース、コロナ対策情報、コロナの他エリアのニュースを掲載している自治会が多い。新規更新ネタがない場合は「他自治会の防災情報、防災特集をしたTV番組、桜の開花、入学式、夏休みの注意事、紅葉、年末年始のあいさつ、卒業式」の写真を載せるなど簡単な更新で繋ぐことで十分で、常に稼働していることが理想だと思います。

5 その他

Twitter+Facebookメイン、緊急時のネットワークとしてLINEの利用がおすすめだと思います。

「練馬 防災」「練馬 町会」で検索すると練馬区の情報が収集できます。

練馬区Facebookページと繋がると区の情報入手できます。(町内掲示板の内容がスマホで見れるイメージ)

なお、ホームページを作成し、情報を収集、蓄積しておくことも重要なので今後の検討課題とする。

また、コロナ禍においてはZOOMの設定及びミーティングの開催と、終息後のリアルミーティングの開催を検討課題とする。

参照 データソース

データソース

<https://gaiax-socialmedialab.jp/post-29375/amp/>

<https://smmlab.jp/article/what-is-facebook-marketing/?amp=1#topic01>

https://www.comnico.jp/we-love-social/different-sns#anc_47u2qes

<https://find-model.jp/insta-lab/sns-users/#Facebook-4>

自治体の災害時のSNS利用

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/senmon_bunka/pdf/h2911SNSkatuyou_chousa.pdf

参照 練馬区防災関係資料へのリンク

- ・ 防災の手引き（練馬区役所ホームページ）

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kurashi/bosai/johohasshin/bousainotebiki.files/2020bousainotebiki.pdf>

- ・ 区民防災組織活動の手引き

https://www.city.nerima.tokyo.jp/kurashi/bosai/jishinsonae/kumin_bousaisohiki.files/kuminbousaitebiki.pdf

- ・ 防災会事例集

https://www.city.nerima.tokyo.jp/kurashi/bosai/jishinsonae/kumin_bousaisohiki.files/jireishuu.pdf

- ・ 練馬区区民防災組織訓練等助成金書類作成の手引き（実績報告書・交付申請書兼請求書・訓練等助成金Q&A・防災会会則、組織図ひな形）

https://www.city.nerima.tokyo.jp/kurashi/bosai/jishinsonae/kumin_bousaisohiki.files/syorusakuseinotebiki.pdf

- ・ 練馬区区民防災組織名簿登録申請書

https://www.city.nerima.tokyo.jp/kurashi/bosai/jishinsonae/kumin_bousaisohiki.files/sinseisyo.pdf

終わりにあたって

メンバーから一言

市川さん、小田切さんから一言